

わかしゃち国体 第3日 柔道 作戦“技あり”成年女子柔道 団体戦、初の栄冠 代表戦 判定で福島下す チームワークお見事

【愛知県】チームワークで勝ち取った栄冠。代表戦になった決勝。大将の吉田希のぞみ(選手②)が、判定で福島を下し優勝を決めた。先鋒(ほう)の土川美和子(選手②5)、中堅の大石愛子(選手②4)と吉田選手は畳の上で肩を寄せ合い、喜びをかみしめていた。

学年は違うが、三人は桜丘高出身。土川選手と大石選手は大学も同じ。お互い気心は知れている。組み合わせが厳しく、強豪との対戦が続いたが、主将を務めた土川選手は「結束はどこよりもいいと信じていた」と声を弾ませていた。

三人はわかしゃち国体に備え、昨年の国体の東海地区予選からチームを組んだ。しかし、予選で敗退。本番には出場することすらできなかった。団体戦といつことでも、だれかがポイントを取ってくれるだろうといつ気持ちがあった」と高浜久和総監督。その失敗を励みにして、三人の連帯意識を強めていった。

国体直前の広島アジア大会では、大石選手が金メダルを獲得。周囲からの期待は「一気に高まり、三人とも地元だから負けるわけにはいかなかった」と口をそろえた。

負けないようにと選んだ引き分け戦法。相手も同じでポイントが取りにくい。この日は準々決勝、準決勝、決勝と3試合あったが、いずれも引き分けで勝負は代表戦。大石選手が一度、吉田選手が二度出場。そこでは果敢に攻め、判定勝ちを収めた。「大将の吉田選手には負担をかけてしまったが、彼女の調子がよかったので安心して任せられた」と大石選手。高浜総監督は「全体的に動きは悪かったが、この一年で鍛えてきたチームワークの勝利」と選手をたたえた。